

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和6年2月29日

関東運輸局

評価対象事業名: 地域間幹線系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)	地方運輸局等における二次評価結果	備考
							評価結果	
東京都地域間幹線系統確保維持協議会	西東京バス株式会社	・「奥多摩駅～奥多摩湖～丹波」を運行	・結果の要因を分析し、需要動向や事業の実施状況の把握を指摘されたことを受け、バス路線の課題を検討するため、運輸支局、都、市町村、バス事業者が参加する地域バス検討会を開催し、関係者間の意見交換や利用促進の検討、地域ニーズの把握に努めた。 ・沿線PR冊子の配布や自社ホームページでの沿線名所の紹介等、観光客に対する路線バスPRの実施やバス時刻表の配布等利用促進に努めた。 ・丹波山村内に伝わる狼伝承をモチーフとした絵本の作画作家とコラボし、路線バスの方向幕に狼伝承のイラストや丹波山村内区間に限りバス車内の停留所表示を特別仕様に変更し、登山客以外の新たな利用者層の利用促進に努めた。	B	A	・R3年度と比較して1%以上の収支率の改善を達成した。 (R3:42.1% →R5:55.1%) ・観光需要の戻りおよび運賃改定により収益の増加がみられた。経費削減に努め、収支率は50%を超えた。 【収益】R3:14,030千円 →R5:19,564千円 【費用】R3:33,349千円 →R5:35,500千円	・観光需要に戻りがみられたものの、昨年度同様災害による通行止めの影響を受けた。地元自治体と協議を重ね、周辺地域を運行するその他の系統も含めたエリア全体の運行回数を見直しを行い、引き続き観光需要の取り込み及び経費削減を図る。	・事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施されている。 ・目標・効果達成状況については、目標を達成しており評価できる。結果の要因を分析し、需要動向や事業の実施状況の把握に努めること。 ・通学において教育委員会と連携した利用促進策の実施は評価できる。引き続き関係機関と連携を密に生産性向上の取組を実施することが望ましい。
	西東京バス株式会社	・「奥多摩駅～留浦～小菅の湯」 ・「奥多摩駅～大菩薩峠東口～小菅の湯」を運行	・結果の要因を分析し、需要動向や事業の実施状況の把握を指摘されたことを受け、バス路線の課題を検討するため、運輸支局、都、市町村、バス事業者が参加する地域バス検討会を開催し、関係者間の意見交換や利用促進の検討、地域ニーズの把握に努めた。 ・沿線PR冊子の配布や自社ホームページでの沿線名所の紹介等、観光客に対する路線バスPRの実施やバス時刻表の配布等利用促進に努めた。	B	A	・R3年度と比較して1%以上の収支率の改善を達成した。 (R3:41.1% →R5:51.1%) ・観光需要の戻りおよび運賃改定により収益の増加がみられた。経費削減に努め、収支率は50%を超えた。 【収益】R3:13,723千円 →R5:19,415千円 【費用】R3:33,387千円 →R5:38,024千円	・観光需要に戻りがみられたものの、慢性的な需要不足によりこのままでは路線の存続が困難である。地元自治体と協議を重ね、周辺地域を運行するその他の系統も含めたエリア全体の運行回数を見直しを行い、運行のあり方そのものに関し検討を進める。	

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)	地方運輸局等における二次評価結果	備考
							評価結果	
東京都地域間幹線系統確保維持協議会	西東京バス株式会社	・「奥多摩駅～奥多摩湖～鴨沢西」を運行	・結果の要因を分析し、需要動向や事業の実施状況の把握を指摘されたことを受け、バス路線の課題を検討するため、運輸支局、都、市町村、バス事業者が参加する地域バス検討会を開催し、関係者間の意見交換や利用促進の検討、地域ニーズの把握に努めた。 ・沿線PR冊子の配布や自社ホームページでの沿線名所の紹介等、観光客に対する路線バスPRの実施やバス時刻表の配布等利用促進に努めた。 ・丹波山村内に伝わる狼伝承をモチーフとした絵本の作画作家とコラボし、路線バスの方向幕に狼伝承のイラストや丹波山村内区間に限りバス車内の停留所表示を特別仕様に変更し、登山客以外の新たな利用者層の利用促進に努めた。	B	A	・R3年度と比較して1%以上の収支率の改善を達成した。 (R3:48.6% →R5:58.7%) ・観光需要の戻りおよび運賃改定により収益の増加がみられた。経費削減に努め、収支率は50%を超えた。 【収益】R3:14,854千円 →R5:19,408千円 【費用】R3:30,555千円 →R5:33,060千円	・観光需要に戻りがみられたものの、昨年度同様災害による通行止めの影響を受けた。地元自治体と協議を重ね、周辺地域を運行するその他の系統も含めたエリア全体の運行回数を見直しを行い、引き続き観光需要の取り込み及び経費節減を図る。	
	西東京バス株式会社	・「武蔵五日市駅～人里～数馬」 ・「武蔵五日市駅～払沢の滝入口～数馬」 ・「武蔵五日市駅～やすらぎの里～数馬」	・結果の要因を分析し、需要動向や事業の実施状況の把握を指摘されたことを受け、バス路線の課題を検討するため、運輸支局、都、市町村、バス事業者が参加する地域バス検討会を開催し、関係者間の意見交換や利用促進の検討、地域ニーズの把握に努めた。 ・臨時バスの運行等、関係者と連携を図りながら事業を実施し、利用促進に努めた。 ・貨客混載運行を実施し、地域や貨物事業者との連携を図ることで路線の活性化を図った。	A	A	・R3年度と比較して1%以上の収支率の改善を達成した。 ・経費削減に努め、収支率は50%を超えた。 【収益】R3:46,731千円 →R5:69,334千円 【費用】R3:111,285千円 →R5:123,252千円 【収支率】R3:41.9% →R5:56.3%	・観光需要に戻りがみられたものの、地元自治体と協議を重ね、周辺地域を運行するその他の系統も含めたエリア全体の運行回数を見直しを行い、引き続き観光需要の取り込み及び経費節減を図る。	
	西東京バス株式会社	武蔵五日市駅～小岩～藤倉 武蔵五日市駅～やすらぎの里～藤倉	・結果の要因を分析し、需要動向や事業の実施状況の把握を指摘されたことを受け、バス路線の課題を検討するため、運輸支局、都、市町村、バス事業者が参加する地域バス検討会を開催し、関係者間の意見交換や利用促進の検討、地域ニーズの把握に努めた。 ・沿線に「檜原 森のおもちゃ美術館」が開業し新たな集客を図るため、自治体と連携しラッピングバスの運行を開始した。	B	A	・R3年度と比較して1%以上の収支率の改善を達成した。 ・経費削減に努め、収支率は50%を超えた。 【収益】R3:30,221千円 →R5:42,941千円 【費用】R3:77,054千円 →R5:84,262千円 【収支率】R3:39.2% →R5:51.0%	・観光需要に戻りがみられたものの、慢性的な需要不足によりこのままでは路線の存続が困難である。地元自治体と協議を重ね、周辺地域を運行するその他の系統も含めたエリア全体の運行回数を見直しを行い、運行のあり方そのものに関し検討を進める。	

第三者委員会における各委員からの意見

令和5年度地域公共交通確保維持改善事業第三者評価委員会における委員による以下の助言は、今後の取組みを行う上で必要な観点であり、考慮されたい。  
○コロナ後の動向や人手不足など様々な側面で見方が変わり目である。  
○地域とコミュニケーションをとりながら、データに基づき地域全体の将来像を打ち出し具体的な目標を立てて、成果や課題など数字で示すことが重要。